

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472602711
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい
訪問調査日	平成21年3月19日
評価確定日	平成21年4月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472602711
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい
所在地	229-0003 相模原市東淵野辺1-22-14 (電話)042-750-5812

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成20年3月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平) 17年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	利用定員数計 18 人 常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	RC造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月14日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4			
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.7歳	最低	65歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	コワさくらクリニック、ひまわり歯科、こぶち整形外科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームはJR古淵駅から徒歩14~5分、相模原市の北部にある。付近はまだ畑の多い地域で雑木林も散在し、田園の面影が残る新興住宅地である。経営は三菱電機ライフサービス株式会社である。三菱電機ライフサービス(株)は三菱電機のソフトの部分の抜粋会社で主に6つの事業分野(総合不動産事業、介護サービス事業、フードサービス事業、物販サービス事業、ビジネスサポート事業、リゾートサービス事業)全国に展開し、介護サービス事業ではデイサービス、居宅介護、訪問介護、福祉用具、グループホームなどを展開し、グループホームは全国に15ヶ所の他、今回長崎に小規模多機能型居宅介護1施設を開所し、今後も支店所在地中心に展開を図って行くとのことである。日本最大の財閥、スリーダイヤの三菱の信頼性は絶大で、社員の社風も健在、信頼に値するサービスが受けられる。管理者(施設長)は業務の棚卸し(見直し)を行い、ケアの本質である利用者との話し、寄り添う時間をより多く取れる改善を進め、利用者をより良く知る為のセンター方式の導入、食材の一括納入、医療のバックアップを受け安心な医療連携体制、手間と誤薬を軽減する薬剤薬局の活用などを進めた。利用者との話し、寄り添うことで利用者が柔和になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前述の如く、三菱電機ライフサービス(株)では、全国に展開するグループホームでセンター方式を導入していくこととなり、相模原、鎌倉で先行導入することとなった。東京センターの協力を得て、相模原としては1F, 2Fで各1名モデル利用者を決め、ご家族にも協力頂き、集中展開することとし、1F, 2Fに各1名東京センターより講師を派遣してもらい、昨年9月からこの2月まで研修と指導を受けた。現状、職員全員でD-4用紙に記入する形ですすめ、終了後順次全利用者、全ホーム展開をすることにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>1年に1回、外部評価とそれに付帯する自己評価を実施することの意義を良く理解した上で業務の棚卸し(見直し)を行い、ケアの本質である利用者との話し、寄り添う時間をより多く取れる改善のための年間活動に繋げている。各フロアリーダーはフロア職員の意見を集約してフロアの自己評価表を作成し管理者と共に纏めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は第1回目の平成19年4月以降、定期的に開催している。メンバーは現・前自治会長、民生委員、入居者本人、ご家族、ホーム関係者でありオブザーバーとして地域包括支援センターの職員が加わっている。テーマとしては防災関係が中心であったが、特に火災の場合は7~8分で消防自動車は到着するので、避難した利用者の見守りを近所をお願いするなどで細かい話しに進んでいる。また大野北の地域包括支援センターでは地域ケア会議を開催しており、民生委員、自治会、福祉施設、ボランティア団体などが出席するのでこれに参加することで地域の広がりにも期待している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族と職員の医学的不安解消を狙って医療連携体制を導入した。往診専門、24時間対応のドクターと訪問看護との契約により、ドクター、看護師とも毎週の訪問があり医学的な安定が図れた。医療連携体制は費用が発生するので家族懇談会を開催し、欠席者には管理者が訪問し了承を得た。家族会は年1回、名称も懇談会とソフトな形で開催している。しばらくお休みしていた広報誌「あじさい通信」は4月より再開する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご近所のお付き合いでは、①自治会に加入し、自治会行事に積極的に参加している。②近所の小学校と交流があり、体験学習でホームを訪れてくれたり、X'masの飾り付けを手伝ってくれたり、運動会に招待してくれたり、小学生が集めたジュース缶のプルトップ集めでたまったお金で車イスの寄贈を受けたりと良い関係にある。ボランティアでは三味線、アコーディオン、ご近所の方が芸を披露に来てくれたりしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていききたい。		今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていききたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社としての理念を明確にし、スタッフと共有することで日々実践に向けて取り組んでいる。新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組んで行く。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流並びに地域行事への参加により交流を図っている。近所の小学校と交流があり、体験学習でホームを訪れてくれたり、X'masの飾り付けを手伝ってくれたり、運動会に招待してくれたり、小学生が集めたジュース缶のプルトップ集めでたまったお金で車イスの寄贈を受けたりと良い関係にあ		今後はボランティアの受け入れを増やすことによりさらに地域と交流を深めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回、外部評価とそれに付帯する自己評価を実施することの意義を良く理解した上で業務の棚卸し(見直し)を行い、ケアの本質である利用者とは話し、寄り添う時間をより多く取れる改善のための年間活動に繋げている。		今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度の開催を行い、取り組み等についての報告や入居者様との生活体験を通して、様々な意見をいただいている。今後も様々な形での運営推進会議を行い、地域との共生を進めて行く。	○	運営推進会議の活用を図る。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行い、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。	○	市担当者との関係を密にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聴く機会を設けて行く。	○	家族懇談会の開催。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リーダー・スタッフ・ユニットミーティングを各々月1回開催し、スタッフの意見や提案を聴く機会を設けている。会社幹部との打ち合わせ機会を密にし、そのミーティングでの意見・提案を反映させて行く。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部研修においては計画を立て、スタッフ全員受講できるように進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講を進めている。本社主催の階層別研修にスタッフを派遣して行く。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行っていない。横浜市グループホーム連絡会には加盟している。		今後も継続して推進して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているもののサービス利用前にスタッフや他利用者と長時間交流を行うことはできていない。	<input type="radio"/>	納得いくまで見学を繰り返し行うなど、ホーム側のペースに偏りすぎることのないよう支援を行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室に招かれたり、お茶を一緒に飲みながらお話をする時間を作り、本人の思いなどを感じ取るようにしている。今後も居室へ伺って、何でも話をしていただける関係・状況を作っていきたい。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以降を伝えられる方からは直接伺っている。難しい方からはそれまでの生活習慣などから推測し対応している。またご家族からも意見をいただいている。センター方式の導入を開始しており、今後は全入居者様への展開を検討している。	<input type="radio"/>	センター方式の展開。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。アセスメントツールとしてのセンター方式を展開し、その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。	<input type="radio"/>	センター方式の展開。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。アセスメントツールとしてのセンター方式を展開し、その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。	<input type="radio"/>	センター方式を継続的に展開するために計画性を持って介護計画書作成の時間を位置づけて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具(介護ベッドレンタル等)をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行い、適切な医療体制を築いている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における在宅療養支援診療所の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけには十分配慮しているが、不十分な部分も見られている。スタッフ会議だけでなく、日常を通して話をし、言葉遣いなどを徹底して直していきたい。	○	スタッフ会議だけでなく、日常を通して話をし、言葉遣いなどを徹底して直していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望により散歩・ドライブ・買い物などにお連れしている。スタッフが多い日は個別の対応で出かけたりもしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものがないか食材の発注時に気をつけている。準備・調理においてもできることはお手伝いしていただき、一緒に食事をしている。片付けも本人の負担にならないように食器の量を減らすなど工夫している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴をさせていただいているが、その日の日程、人員数により、必ずしも希望に沿った時間の入浴ではない場合もある。入浴を拒む方には、タイミング・雰囲気を作った上で声かけを行っていききたい。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせてできるだけ買い物・散歩等に出かけている。編み物を支援したり、歌の好きな方のためにカラオケも購入し、楽しんでいただいている。	○	外食機会を作っていきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花の水やり、買い物、散歩、または家族との外出も支援している。希望をうかがった上で、スタッフと家族で協力して援助して行く。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉・玄関の鍵は日中は常に開けている。安全確保のため出入り時はチャイムが鳴るようにしているとともに訪問者・入居者・スタッフの所在などは確認している。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定は結べていない。また、防災備蓄頻については、3日分の確保ができています。	○	地域の自治会との災害時の共同体制を検討していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食形態は個別に加減し調整している。また、食欲のない時には本人の好きなものを提供し、水分も本人の好みで提供できるように支援している。毎食ごとに食事摂取量をチェックしており、必要時には水分量もチェックしている。月初めには体重を測り推移を確認している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器の洗浄音やテレビ・ステレオの音など不快にならない音量にするよう注意している。流しの水道水の音にも配慮していきたい。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真・仏壇・家具などのなじみのものを持ってきていただいている。入居後は本人と相談しながら配置を替えたりして、居心地の良いスペースを作るよう工夫している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

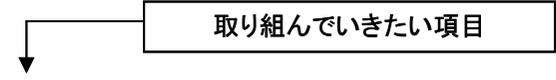
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	三菱電機ライフサービス(株) グループホーム あじさい
(ユニット名)	花びら通り一丁目
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 相模原市 古淵 1-22-14
記入者名 (管理者)	足立 俊彦
記入日	平成 21 年 3 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。	<input type="radio"/>	今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社としての理念を明確にし、スタッフと共有することで日々実践に向けて取り組んでいる	<input type="radio"/>	新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の家族への説明及び家族会、運営推進会議にて理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/>	理念の実践として家族との外出や外泊及び地域行事への積極的参加を進める。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	スタッフ全員が自ら挨拶を励行することにより隣近所との日常的付き合いを実践している。 また、近所の偏りプランター園芸の指導をいただいている。	<input type="radio"/>	日常的の散歩や買い物を通じてのふれあいを行うことにより交流を深めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流並びに地域行事への参加により交流を図っている。	<input type="radio"/>	今後はボランティアの受け入れを増やすことによりさらに地域と交流を深めていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の身体状況やスタッフの人員不足により現時点での取り組みができていない。	—	—
---	--	--	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回の自己評価及び外部評価により、実施する意義をよく理解した上での業務の棚卸を行い、年間の活動に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度の開催を行い、取り組み等についての報告や入居者様との生活体験を通して、様々な意見をいただいている。	<input type="radio"/>	今後も様々な形での運営推進会議を行い、地域との共生を進めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行い、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。	<input type="radio"/>	市担当者との関係を密にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去において制度活用の支援は行っているもののスタッフ全員で学ぶ機会はできていない。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、成年後見制度について学ぶことにより必要な支援ができるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行い、常日頃から虐待防止への意識付けを行っている。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、高齢者虐待防止関連法について学ぶことによりさらなる防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に十分説明を行い、理解・納得を得られている。	<input type="radio"/>	現在の説明を継続する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	普段より入居者様とのコミュニケーションを大切にし、何気ない意見・不満・苦情を聴く機会を設けていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族懇談会及び電話、来訪時においてそれぞれについて報告を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聴く機会を設けていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・スタッフ・ユニットミーティングを各々月1回開催し、スタッフの意見や提案を聴く機会を設けている。	<input type="radio"/>	会社幹部との打ち合わせ機会を密にし、左記ミーティングでの意見・提案を反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの休憩時間などは利用者の状況に合わせて柔軟に対応し、尚かつパートスタッフの採用にて必要な時間帯に厚く配置している。	<input type="radio"/>	人手がより必要な時間帯に必要なスタッフの募集を進めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施している。	<input type="radio"/>	研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている</p>	<p>一部研修においては計画を立て、スタッフ全員受講できるよう進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講を進めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>本社主催の階層別研修にスタッフを派遣していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行えていない。</p>	<input type="radio"/>	<p>地域の同業者との交流の場を模索していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会や社内レクリエーションを定期的に行い、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	<input type="radio"/>	<p>3ヶ月に1度の親睦会と年1回の社内レクリエーションを継続して実施していく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給・資格手当・特別手当などの制度を設け、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>昇給・資格手当・特別手当の制度を今後も継続して運用していく。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、本人をよく知り、希望を聴く機会を設けている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、家族の状況、希望を聴く機会を設けている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の話をよく聞いた上で、適切なサービス利用の選択が可能ないように情報を提供している。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているもののサービス利用前にスタッフや他利用者と長時間交流を行うことはできていない。	<input type="radio"/>	納得いくまで見学を繰り返し行うなど、ホーム側のペースに偏りすぎることのないよう支援を行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室に招かれたり、お茶を一緒に飲みながらお話をする時間を作り、本人の思いなどを感じ取るようにしている。	<input type="radio"/>	今後も居室へ伺って、何でも話をしていただける関係・状況を作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の状態・変化等を報告し、より良い生活が出来るよう話し合いを持っている。また、家族より協力できることがあればと、散歩等にも行って下さっている。	<input type="radio"/>	面会に来られないご家族にも日常生活の報告などために連絡を取っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係を理解した上で、ご家族の来訪を楽しみにお待ちしておりますことなどをお伝えしている。また来ていただけるようお願いも本人と一緒にさせていただいている。	<input type="radio"/>	本人の伝えたいことが、うまく伝わらない時には代弁するようにし、良い関係がこれからも築けるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方だったり、それまで住んでいた家がなくなってしまったなどの理由があり積極的には行えていないが、連絡をいただける方には面会をいただいている。	<input type="radio"/>	はがき、手紙などを書きお送りするようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況において食席などの配置換えをしている。利用者同士で出来ない方のために気遣いをしながらお手伝いをさせている場面が見受けられる。	<input type="radio"/>	出来ることについては、お手伝いをしていただけるよう役割配分の調整を行っていききたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移転先でのサービス必要な事柄に限り、継続的に情報提供や相談に応じている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以降を伝えられる方からは直接伺っている。難しい方からはそれまでの生活習慣などから推測し対応している。またご家族からも意見をいただいている。	<input type="radio"/>	センター方式の導入を開始しており、今後は全入居者様への展開を検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを細かく行い、さらに入居後も少しずつ本人やご家族からいろいろな話をお聞きすることで、把握に努めている。また、センター方式のツールの導入も開始している。	<input type="radio"/>	センター方式のツールの更なる利用を検討し、全入居者様の情報の把握を深めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員で日々の様子を観察し、入居時のアセスメントとの違いを確認しながら、チームケアとして活かせる情報の把握に努めている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。	<input type="radio"/>	アセスメントツールとしてのセンター方式を展開し、その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。	<input type="radio"/>	アセスメントツールとしてのセンター方式を継続的に展開するために計画性を持って介護計画書作成の時間を位置づける。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別(ケース)記録や連絡帳に記入して情報の共有をしながらケアの統一を図っている。また、一部入居者様を対象にセンター方式の導入を開始し、いままで以上にチームケアの土壌の醸成を図っているが、全体としてはタイムリーな介護計画の見直しには至っていない。	<input type="radio"/>	センター方式の展開を進め、チームケアを前提とした適切な介護計画の見直しを実施していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具(介護ベッドレンタル等)をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や定期的防災訓練、近隣の小中学校との交流など、本人の意向や必要性に応じた資源の活用を行っている。(三味線・七夕・運動会・クリスマス等)	<input type="radio"/>	様々な形での地域のボランティアを積極的に受け入れていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの話し合いにて入居のための支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な支援事例としては生じていないが、地域ケア会議・運営推進会議を通して支援の可能性について話し合いを持っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行い、適切な医療体制を築いている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在認知症の専門医との連携はとれていない。	<input type="radio"/>	近隣の医療機関の情報の収集を行っていく。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護事業所との連携を行い、往診の在宅療養支援診療所とともに厚い医療体制を築いている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の相談室との連絡を密にし、退院に関する相談及び実際に戻られた時の生活がスムーズに行われるよう支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における在宅療養支援診療所の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの現状における体制について家族に十分に理解をいただき、その上で可能な範囲での必要な支援を在宅療養支援診療所や訪問看護事業所とともに行っている。	<input type="radio"/>	在宅療養支援診療所・訪問看護事業所スタッフとの連携によりチームとしての機能を強化していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの繰り返しの話し合いにて入居者の円滑な住み替えに対する支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには十分配慮しているが、不十分な部分も見られている。特にスタッフによるトイレ誘導時の声かけや排泄内容等を大きな声で話している。	<input type="radio"/>	スタッフ会議だけでなく、日常を通して話をし、言葉遣いなどを徹底して直していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を常に伺い、尊重するようにしている。(入浴については、本人の希望がなくとも入っていただくことがある)	<input type="radio"/>	お茶の時間の飲み物、おやつに召し上がりたい物を伺っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望により散歩・ドライブ・買い物などにお連れしている。スタッフが多い日は個別の対応で出かけたりもしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	人員の都合で店には行っていないが、訪問理美容を月に1回利用している。カット・パーマなどはご自分で決めていただいている。	<input type="radio"/>	衣類の調え、髭剃り、爪切りなどさりげなく声かけし支援を行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものがないか食材の発注時に気をつけている。準備・調理においてもできることはお手伝いしていただき、一緒に食事をしている。片付けも本人の負担にならないように食器の量を減らすなど工夫している。	<input type="radio"/>	義務付けや負担にならないように工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等は一緒に買い物に行き、好みを伺って購入している。お酒は主に行事の際に提供している。たばこを吸われる方は現在はいない。	<input type="radio"/>	体重が増えたりしている方もいるのでバランスを考えながら提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日「排泄チェック表」を記入することで、本人のリズムの把握に努め、トイレ誘導をしたり、できないことはお手伝いしている。	<input type="radio"/>	トイレ誘導時や排泄の確認などプライバシーに配慮しながら声かけをしていく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴をしていただいているが、その日の日程、人員数により希望に沿った時間の入浴はできていない。	<input type="radio"/>	入浴を拒む方には、タイミング・雰囲気を作った上での声かけを行っていききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温に注意し、なおかつ習慣で電気アンカを使用している方にはタオルで包むなど低温やけどへの配慮もしている。また睡眠パターンも本人のリズムを尊重している。	<input type="radio"/>	毎週シーツ交換、寝間着の洗濯をしている。また、天気の良い日は布団を干している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせてできるだけ買い物・散歩等に出かけている。編み物を支援したり、歌の好きな方のためにカラオケも購入し、楽しんでいただいている。	<input type="radio"/>	外食機会を作っていききたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりご自分でお金を所持していただいている。要望に応じてコンビニ・スーパー等と一緒に買って買い物をしている。	<input type="radio"/>	本人の手持ちのお金については、管理が難しいことを家族に説明し、了解をいただいている。本人より、紛失やしまい忘れの訴えがあった時は一緒に探している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花の水やり、買い物、散歩、または家族との外出も支援している。	<input type="radio"/>	希望をうかがった上で、スタッフと家族で協力して援助していききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見・バスハイク等を行事に取り入れている。また、ご家族にも声かけを行い、同行していただいたり、外出・外泊の機会を作っていただくようお願いしている。	<input type="radio"/>	歌の好きな方には、コンサートなどの外出の機会も作っていききたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていただいたり、家族・親戚への電話などを支援している。	<input type="radio"/>	近況報告としての暑中見舞い・年賀状など年2回くらいの手紙は書いていただけるよう支援したい。なかなか来ていただけないご家族には電話等をしていただけるよう支援していききたい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるよう時間制限は少なくし、門扉・玄関の鍵は日中は常に開けている。スタッフは笑顔での挨拶を心がけている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し、理解を深めることにより身体拘束のないケアを実践している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉・玄関の鍵は日中は常に開けている。	<input type="radio"/>	安全確保のため出入り時はチャイムが鳴るようにしていると同時に訪問者・入居者・スタッフの所在などは確認している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動の把握に努め、常に安全確保を心がけている。夜間は定期的な巡回を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ等危険物であっても、本人の状態に合わせて置き場所を相談するなど支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練を年に2回実施している。また普通救命救急講習の受講も行ったうえで、見守り・付き添い・確認などスタッフ間で声を掛け合いながら事故防止に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の普通救命救急講習の受講と年2回の防災訓練を全員に義務付けている。また、火災受診盤の操作方法を全スタッフが理解しているようにしている。	<input type="radio"/>	現在の訓練を維持し、さらに外部講師による救急時の対応のための研修や消防署との合同訓練を企画していく。
○災害対策				

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定は結べていない。また、防災備蓄頻については、3日分の確保ができています。	<input type="radio"/>	地域の自治会との災害時の共同体制を検討していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの個別のリスクについては、身体状況の変化に合わせて現在の身体状況とともに家族に説明し、その中でも本人の生活を尊重できるような支援を心がけている。	<input type="radio"/>	医療関係者との連携を強化し、チームとしての対応策を検討していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情や動作の確認、毎日のバイタルチェックにより体調変化の早期発見に努め、家族・スタッフ・かかりつけ医・訪問看護師間で情報を共有しながら早期対応を行っている。	<input type="radio"/>	在宅療養支援診療所・訪問看護事業所スタッフとの24時間の連絡体制により早期対応が可能となっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明書をファイルし、いつでも確認できるところに保管している。誤薬がないように三重のチェックを行い、薬剤の変更時には体調の変化に気を配っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬剤だけではなく、牛乳・ヨーグルト・プルーン等でコントロールしている。	<input type="radio"/>	ラジオ体操・散歩・卓球など体を動かす支援も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声かけを行い、うがい薬を使用しての口腔ケアを実施している。義歯はポリドントで消毒している。また、訪問歯科医による口腔ケアも実施している。	<input type="radio"/>	定期的な歯科検診を実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食形態は個別に加減し調整している。また、食欲のない時には本人の好きなものを提供し、水分も本人の好みで提供できるように支援している。	<input type="radio"/>	毎食ごとに食事摂取量をチェックしており、必要時には水分量もチェックしている。月初めには体重を測り推移を確認している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ・ノロウイルスについての内部研修を行い、予防・初期対応について徹底している。手洗い・うがいを励行している。	<input type="radio"/>	消毒液をミニボトルに入れて携帯し、消毒を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材提供業者よりその日の食材が配達され、冷蔵庫で保管し、すべて当日に使い切っている。毎日調理用具、布巾等の漂白消毒も行っている。	<input type="radio"/>	冷蔵庫内の掃除も徹底して行っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入りしやすいように門扉は開放している。また、玄関などに季節に応じた花を植えるなど明るい雰囲気を作っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器の洗浄音やテレビ・ステレオの音など不快にならない音量にするよう注意している。	<input type="radio"/>	流しの水道水の音にも配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他にテレビの前にソファを置いたり玄関のところにベンチを置いたりしているので、そこに座りテレビを見たり、外を眺めたりしている。	<input type="radio"/>	畳のスペース活用する機会をつくりたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真・仏壇・家具などのなじみのものを持ってきていただいている。	<input type="radio"/>	入居後は本人と相談しながら配置を替えたりして、居心地の良いスペースを作るよう工夫している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の際はもちろん、それ以外でも窓を開け換気をしている。乾燥予防のため加湿器、濡れタオルを使用している。</p>	○	<p>室内温度計により、居室の温度をこまめにチェックする。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行時は手すりに掴まって歩いていただくよう声かけ見守りを行っている。居室内も必要な方には滑り止めマット等を使用している。</p>	○	<p>現在の支援を継続する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレと明記したり、浴室にのれんをかけたり、居室を間違われないように名前を貼ったりしている。</p>	○	<p>居室にご本人の好みの表札などを飾り、わかりやすくする。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>小さいスペースではなるが、プランターで野菜を作り収穫している。玄関には入居者様と一緒に花を植えている。</p>	○	<p>水やりは大変であるが、収穫する楽しみがあるので継続したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療連携により日常の健康管理ができています。また、休日・夜間など緊急時の連絡も病院ととれ、必要な時には往診も受けられようになった。

小学校や地域との交流も継続できている。

運営推進会議も行い、地域の方やご家族にもご理解いただけていると思われる。

講師を招いてセンター方式の学習を始め、入居者様へのケアの向上を目指している。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	三菱電機ライフサービス(株) グループホーム あじさい
(ユニット名)	花びら通り二丁目
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 相模原市 古淵 1-22-14
記入者名 (管理者)	足立 俊彦
記入日	平成 21 年 3 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。	<input type="radio"/>	今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社としての理念を明確にし、スタッフと共有することで日々実践に向けて取り組んでいる	<input type="radio"/>	新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の家族への説明及び家族会、運営推進会議にて理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/>	理念の実践として家族との外出や外泊及び地域行事への積極的参加を進める。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	スタッフ全員が自ら挨拶を励行することにより隣近所との日常的付き合いを実践している。 また、近所の偏りプランター園芸の指導をいただいている。	<input type="radio"/>	日常的の散歩や買い物を通じてのふれあいを行うことにより交流を深めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流並びに地域行事への参加により交流を図っている。	<input type="radio"/>	今後はボランティアの受け入れを増やすことによりさらに地域と交流を深めていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の身体状況やスタッフの人員不足により現時点での取り組みができていない。	—	—
---	--	--	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回の自己評価及び外部評価により、実施する意義をよく理解した上での業務の棚卸を行い、年間の活動に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度の開催を行い、取り組み等についての報告や入居者様との生活体験を通して、様々な意見をいただいている。	<input type="radio"/>	今後も様々な形での運営推進会議を行い、地域との共生を進めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行い、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。	<input type="radio"/>	市担当者との関係を密にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去において制度活用の支援は行っているもののスタッフ全員で学ぶ機会はできていない。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、成年後見制度について学ぶことにより必要な支援ができるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行い、常日頃から虐待防止への意識付けを行っている。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、高齢者虐待防止関連法について学ぶことによりさらなる防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に十分説明を行い、理解・納得を得られている。	<input type="radio"/>	現在の説明を継続する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	普段より入居者様とのコミュニケーションを大切にし、何気ない意見・不満・苦情を聴く機会を設けていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族懇談会及び電話、来訪時においてそれぞれについて報告を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聴く機会を設けていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・スタッフ・ユニットミーティングを各々月1回開催し、スタッフの意見や提案を聴く機会を設けている。	<input type="radio"/>	会社幹部との打ち合わせ機会を密にし、左記ミーティングでの意見・提案を反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの休憩時間などは利用者の状況に合わせて柔軟に対応し、尚かつパートスタッフの採用にて必要な時間帯に厚く配置している。	<input type="radio"/>	人手がより必要な時間帯に必要なスタッフの募集を進めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施している。	<input type="radio"/>	研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一部研修においては計画を立て、スタッフ全員受講できるよう進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講を進めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>本社主催の階層別研修にスタッフを派遣していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行えていない。</p>	<input type="radio"/>	<p>地域の同業者との交流の場を模索していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会や社内レクリエーションを定期的に行い、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	<input type="radio"/>	<p>3ヶ月に1度の親睦会と年1回の社内レクリエーションを継続して実施していく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給・資格手当・特別手当などの制度を設け、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>昇給・資格手当・特別手当の制度を今後も継続して運用していく。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、本人をよく知り、希望を聴く機会を設けている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、家族の状況、希望を聴く機会を設けている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の話をよく聞いた上で、適切なサービス利用の選択が可能ないように情報を提供している。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているもののサービス利用前にスタッフや他利用者と長時間交流を行うことはできていない。	<input type="radio"/>	納得いくまで見学を繰り返すなど、ホーム側のペースに偏りすぎることのないよう支援を行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生き立ち(生活歴)を理解したうえでゆっくりと話を聞く時間をとるようにしている。また、悩み・不満などをお聞きしたり、本人が得意としていることを教えていただいたりしている。	<input type="radio"/>	決まったスタッフ数、時間の中では限りがありますが、ご家族にも協力していただき、いろいろなことを伺っていききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の考えを考慮したうえで、スタッフにできること、できないことを話し合いながら本人にとって安心して過ごせるよう援助している。	<input type="radio"/>	まだまだ家族とのかかわりが密でない方もいらっしゃるもので、スタッフ側から積極的にご家族へ声かけをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係を理解した上で、ご家族の来訪を楽しみにお待ちしておりますことなどをお伝えしている。また来ていただけるようお願いも本人と一緒にさせていただいている。	<input type="radio"/>	ご家族も多忙と思われるが、来ていただけるきっかけを作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方だったり、それまで住んでいた家がなくなってしまったなどの理由があり積極的には行っていないが、連絡をいただける方には面会をいただいている。	<input type="radio"/>	はがき、手紙などを書きお送りするようしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況において食席などの配置換えをしている。利用者同士で出来ない方のために気遣いをしながらお手伝いをさせている場面が見受けられる。	<input type="radio"/>	出来ることについては、お手伝いをさせていただけるよう役割配分の調整を行っていききたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移転先でのサービス必要な事柄に限り、継続的に情報提供や相談に応じている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以降を伝えられる方からは直接伺っている。難しい方からはそれまでの生活習慣などから推測し対応している。またご家族からも意見をいただいている。	<input type="radio"/>	センター方式の導入を開始しており、今後は全入居者様への展開を検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを細かく行い、さらに入居後も少しずつ本人やご家族からいろいろな話をお聞きすることで、把握に努めている。また、センター方式のツールの導入も開始している。	<input type="radio"/>	センター方式のツールの更なる利用を検討し、全入居者様の情報の把握を深めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員で日々の様子を観察し、入居時のアセスメントとの違いを確認しながら、チームケアとして活かせる情報の把握に努めている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。	<input type="radio"/>	アセスメントツールとしてのセンター方式を展開し、その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。	<input type="radio"/>	アセスメントツールとしてのセンター方式を継続的に展開するために計画性を持って介護計画書作成の時間を位置づける。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別(ケース)記録や連絡帳に記入して情報の共有をしながらケアの統一を図っている。また、一部入居者様を対象にセンター方式の導入を開始し、いままで以上にチームケアの土壌の醸成を図っているが、全体としてはタイムリーな介護計画の見直しには至っていない。	<input type="radio"/>	センター方式の展開を進め、チームケアを前提とした適切な介護計画の見直しを実施していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具(介護ベッドレンタル等)をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や定期的防災訓練、近隣の小中学校との交流など、本人の意向や必要性に応じた資源の活用を行っている。(三味線・七夕・運動会・クリスマス等)	<input type="radio"/>	様々な形での地域のボランティアを積極的に受け入れていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの話し合いにて入居のための支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な支援事例としては生じていないが、地域ケア会議・運営推進会議を通して支援の可能性について話し合いを持っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行い、適切な医療体制を築いている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在認知症の専門医との連携はとれていない。	<input type="radio"/>	近隣の医療機関の情報の収集を行っていく。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護事業所との連携を行い、往診の在宅療養支援診療所とともに厚い医療体制を築いている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の相談室との連絡を密にし、退院に関する相談及び実際に戻られた時の生活がスムーズに行われるよう支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における在宅療養支援診療所の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの現状における体制について家族に十分に理解をいただき、その上で可能な範囲での必要な支援を在宅療養支援診療所や訪問看護事業所とともに行っている。	<input type="radio"/>	在宅療養支援診療所・訪問看護事業所スタッフとの連携によりチームとしての機能を強化していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの繰り返しの話し合いにて入居者の円滑な住み替えに対する支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには十分配慮しているが、不十分な部分も見られている。特にスタッフによるトイレ誘導時の声かけや排泄内容等を大きな声で話している。	<input type="radio"/>	入居者の方がスタッフ同士の話を聞いている時があるので、言葉かけや対応については特にスタッフ一人ひとりの意識を高めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を常に伺い、尊重するようにしている。(入浴については、本人の希望がなくとも入っていただくことがある)また、悩み事があれば話をお聞きし、一緒に前向きな方向にいけるようにしている。	<input type="radio"/>	お茶の時間の飲み物、おやつに召し上がりたい物を伺っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での生活の中で、なかなか一人ひとりのペースに合わせることは難しいが、なるべくその人に合った一日が過ごせるように配慮している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	人員の都合で店には行っていないが、訪問理美容を月に1回利用している。カット・パーマなどはご自分で決めていただいている。 お化粧や身だしなみについては、気が付いた時には声かけ(似合っていることをお伝えする)ようにしている。また、季節に合わせた洋服を選んでいただいている。	<input type="radio"/>	衣類の調え、髭剃り、爪切りなどさりげなく声かけし支援を行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食席については、周りの方と気が合うように決めさせていただいている。食事作りや片付けについては、その方のできることで、できないことを考慮して手伝っていただいている。	<input type="radio"/>	まだまだ入居様の中には、お手伝いができる方がいらっしゃるので、簡単なことでも声かけをして手伝っていただくようにしていきたい。また、義務付けや負担にならないように工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族と相談をしながら行っている。ご家族が用意くださるものもあるが、希望があれば買い物時に購入することもある。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	Dr. と相談しながらその人に合った排泄コントロールをしている。夜間リハビリパンツ・パッドを自ら使用している方もいらっしゃるが、日中は普通の下着を着用している。	<input type="radio"/>	今後徐々にリハビリパンツ等を使用される方が増えてくると思われるが、早めの対応とならないようにぎりぎりまで使用しないで済む対応を考えていきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴をしていただいている。入浴中は1対1の対応ができる時間なので話を聞きながらゆっくり入っていただいている。	<input type="radio"/>	どうしても援助する側の都合になってしまうこともあり、お話しして理解していただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度にも気をつけている。就寝時間もほぼ決まっているので、入居者に合わせて対応できている。	<input type="radio"/>	毎週シーツ交換、寝間着の洗濯をしている。また、天気の良い日は布団を干している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせてできるだけ買い物・散歩等に出かけている。編み物を支援したり、歌の好きな方のためにカラオケも購入し、楽しんでいただいている。	<input type="radio"/>	少しずつ個人対応(買い物・趣味等の外出)する時間を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりご自分でお金を所持していただいている。要望に応じてコンビニ・スーパー等に一緒に行って買い物をしている。	<input type="radio"/>	本人の手持ちのお金については、管理が難しいことを家族に説明し、了解をいただいている。本人より、紛失やしまい忘れの訴えがあった時は一緒に探している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩などは行っているが、個別の希望での外出は十分に行えていない。	<input type="radio"/>	希望をうかがった上で、スタッフと家族で協力して援助していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見・バスハイク等を行事に取り入れている。また、ご家族にも声かけを行い、同行していただいたり、外出・外泊の機会を作っていただくようお願いしている。	<input type="radio"/>	歌の好きな方には、コンサートなどの外出の機会も作っていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていただいたり、家族・親戚への電話などを支援している。	<input type="radio"/>	近況報告としての暑中見舞い・年賀状など年2回くらいの手紙は書いていただけるよう支援したい。なかなか来ていただけないご家族には電話等をしていただけるよう支援していきたい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるよう時間制限は少なくし、門扉・玄関の鍵は日中は常に開けている。スタッフは笑顔での挨拶を心がけている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し、理解を深めることにより身体拘束のないケアを実践している。 外へ行こうとされる様子が伺えるときは、先に声かけを行い、本人の話をよくお聞きするようにしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉・玄関の鍵は日中は常に開けている。また、階段への出入り口にはチャイムを付けて、注意するようにしている。	<input type="radio"/>	安全確保のため出入り時はチャイムが鳴るようにしていると同時に訪問者・入居者・スタッフの所在などは確認している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動の把握に努め、常に安全確保を心がけている。日中も時々訪室して様子をみさせていただき、夜間は定期的な巡回を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱は事務所でお預かりし、針箱については針の本数を確認している。爪切りはその方の状態によりお預かりする場合もある。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬については、日時・名前等の確認をしたうえで、入居者の方の状態に合わせ、飲み込むまでの確認をしている。防災訓練については年に2回実施している。また普通救命救急講習の受講も行っている。転倒については、靴の履き方に気をつけ、見守り同行をするようにしている。	<input type="radio"/>	服薬については、時々間違いや服薬漏れが起こるので、スタッフの意識を高めていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の普通救命救急講習の受講と年2回の防災訓練を全員に義務付けている。また、火災受診盤の操作方法を全スタッフが理解しているようにしている。	<input type="radio"/>	現在の訓練を維持し、さらに外部講師による救急時の対応のための研修や消防署との合同訓練を企画していく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定は結べていない。また、防災備蓄頻については、3日分の確保ができています。	<input type="radio"/>	地域の自治会との災害時の共同体制を検討していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの個別のリスクについては、身体状況の変化に合わせて現在の身体状況とともに家族に説明し、その中でも本人の生活を尊重できるような支援を心がけている。	<input type="radio"/>	医療関係者との連携を強化し、チームとしての対応策を検討していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情や動作の確認、毎日のバイタルチェックにより体調変化の早期発見に努め、家族・スタッフ・かかりつけ医・訪問看護師間で情報を共有しながら早期対応を行っている。また、入浴時には全身の変化に気をつけている。	<input type="radio"/>	在宅療養支援診療所・訪問看護事業所スタッフとの24時間の連絡体制により早期対応が可能となっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明書をファイルし、いつでも確認できるところに保管している。誤薬がないように三重のチェックを行い、薬剤の変更時には体調の変化に気を配っている。しかし、全スタッフがすべて理解しているところまでは至っていない。	<input type="radio"/>	全スタッフの理解を高めるよう努力が必要と思われる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての理解はある程度できているが、限られた時間や限られた施設内での動きでは十分な運動に至っていない。	<input type="radio"/>	ラジオ体操・散歩・卓球など体を動かす支援も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声かけを行い、うがい薬を使用しての口腔ケアを実施している。義歯はポリドントで消毒している。また、訪問歯科医による口腔ケアも実施している。	<input type="radio"/>	定期的な歯科検診を実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食形態は個別に加減し調整している。また、食欲のない時には本人の好きなものを提供し、水分も本人の好みで提供できるように支援している。	<input type="radio"/>	毎食ごとに食事摂取量をチェックしており、必要時には水分量もチェックしている。月初めには体重を測り推移を確認している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ・ノロウイルスについての内部研修を行い、予防・初期対応について徹底している。スタッフ・入居者様とも手洗い・うがいを励行している。	<input type="radio"/>	消毒液をミニボトルに入れて携帯し、消毒を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材提供業者よりその日の食材が配達され、冷蔵庫で保管し、すべて当日に使い切っている。器具は使用前は消毒液による消毒を行い、使用後は毎日調理用具、布巾等の漂白消毒も行っている。	<input type="radio"/>	冷蔵庫内の掃除も徹底して行っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入りしやすいように門扉は開放している。また、玄関などに季節に応じた花を植えるなど明るい雰囲気を作っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、廊下には入居者様と一緒に製作したその月がわかるカレンダーを貼っている。リビングは明るく、清潔感のある空間にしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他にテレビの前にソファを置いたり玄関のところにベンチを置いたりしているので、そこに座りテレビを見たり、外を眺めたりしている。	<input type="radio"/>	畳のスペース活用する機会をつくりたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真・仏壇・家具などのなじみのものを持ってきていただいている。	<input type="radio"/>	入居後は本人と相談しながら配置を替えたりして、居心地の良いスペースを作るよう工夫している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の際はもちろん、それ以外でも窓を開け換気をしている。乾燥予防のため加湿器、濡れタオルを使用している。昼間は空調ではなく、床暖房にしている。</p>	○	<p>室内温度計により、居室の温度をこまめにチェックする。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行時は手すりに掴まって歩いていただくよう声かけ見守りを行っている。居室内も必要な方には滑り止めマット等を使用している。 トイレには必要な部分に後付で手すりを設置している。</p>	○	<p>現在の支援を継続する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレと明記したり、浴室にはのれんをかけたり、居室を間違われないように名前を貼ったりしている。</p>	○	<p>居室にご本人の好みの表札などを飾り、わかりやすくする。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>小さいスペースではなるが、プランターで野菜を作り収穫している。玄関には入居者様と一緒に花を植えている。</p>	○	<p>草むしり等花壇の手入れ、水やりは大変であるが、収穫する楽しみがあるので継続して取り組みたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療連携により日常の健康管理ができています。また、休日・夜間など緊急時の連絡も病院ととれ、必要な時には往診も受けられようになった。

小学校や地域との交流も継続できている。

講師を招いてセンター方式の学習を始め、入居者様へのケアの向上を目指している。

入居者様一人ひとりできることをやっていただき、家族との関係を大切にしながら入居者が安心して過ごすことができるよう気をつけています。